

★ ふさおとめ、ふさこがねの生育は平年より早く昨年並み

★ 幼穂形成期後は湛水管理に努めましょう

1 君津地域の生育概況

6月4日以降、日平均気温は20℃を超え、平年より高い日が続いています。気象庁によると今後2週間も気温がかなり高いと予想されています。また関東甲信地方は、6月10日に梅雨入りしましたが、晴れの日が続いています。各品種の幼穂形成期は、4月20日植えの「ふさおとめ」は6月12日頃、「ふさこがね」は6月13日頃でした。4月26日植えの「コシヒカリ」は6月24日頃から、4月27日植えの「粒すけ」は6月25日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。

現在の生育は平年並みに推移していますが、気温の上昇とともに生育が早まる可能性があります。早生品種はすでに幼穂形成期を迎えており、7月上旬には出穂期を迎えます。水が必要な時期になりますので、湛水管理を徹底し、高温対策に努めましょう。

2 生育調査ほの調査結果※

(ふさおとめ6月12日、ふさこがね6月13日、コシヒカリ及び粒すけ6月16日)

品種		田植日	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	単葉 葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R7年	4月20日	10.9	56.9	34.7	530.9	43.0
	平年値	4月19日	10.8	56.4	35.7	560.5	42.4
	平年比	+1	+0.1	101%	97%	95%	101%
ふさこがね (木更津市)	R7年	4月20日	10.8	54.0	35.3	533.9	41.6
コシヒカリ (君津市)	R7年	4月26日	10.6	55.1	32.3	505.1	35.1
	平年値	4月24日	9.8	55.4	34.1	531.8	39.7
	平年比	+2	+0.8	99%	95%	95%	88%
粒すけ (君津市)	R7年	4月27日	11.7	48.7	28.5	466.7	40.2

※平年値について

「コシヒカリ」は令和2～6年の平均、「ふさおとめ」は令和3～5年の平均です。「ふさこがね」は昨年度から、粒すけは本年度から調査地点を変更しているため、本年のデータのみの記載となります。

※調査地点の植付密度の違いから、株当たり茎数と面積当たり茎数の間で平年値との関係が異なる場合がございます。面積当たり茎数を優先して参照ください。

3 これからの管理のポイント

① 「コシヒカリ」「粒すけ」の幼穂形成期（出穂 25 日前・幼穂長 1mm）の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	穂肥適期の目安
コシヒカリ	4 月 20 日	6 月 20 日頃	幼穂形成期 7 日後頃～15 日後頃の間
	5 月 1 日	6 月 26 日頃	
粒すけ	4 月 20 日	6 月 18 日頃	幼穂形成期から 7 日後頃

※穂肥の施肥量は窒素と加里を 10a 当たり成分量で各 3kg が目安になります。

※幼穂形成期の 10 日～15 日後までが冷害危険期になります。

② 幼穂形成期の目標生育量

下の表を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせ、減肥しましょう。また近年、収穫期前の降雨や強風により倒伏するほ場もみられますので、下の表を参考に施肥量を調整しましょう。

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	55 以下	570～620 (31～34 本)		520～570 (29～31 本)
ふさこがね	60～65 以下	450～500 (25～27 本)		
コシヒカリ	70 以下	430～560 (23～30 本)		
粒すけ	65 以下	590 (32 本)	550 (30 本)	

※茎数の () 内は 60 株/坪植え時の 1 株当たり茎数の目安

③ 今後の水管理について

幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理を行いましょう。

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10～15 日後（出穂期 15～10 日前）に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため、「深水管理」を行いましょう。

④ 斑点米カメムシ類の防除

出穂期前後の畦畔の草刈りは、カメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂の 2 週間前頃までに刈り取り、出穂後は、収穫まで雑草が出穂しないように草刈りしましょう。

⑤ 主要病害の防除

いもち病

止葉などの上位葉に病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。

稲こうじ病

穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期 10 日前までに、薬剤防除をしましょう。

紋枯病

茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。飼料用米品種でも発生がみられるので注意しましょう。

⑥ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、胞子が飛び、周りのほ場にも感染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、埋却処理するなどの対応について、ご協力をお願いします。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 富澤（電話）0438-23-0299 （メール）k.tmsw3@pref.chiba.lg.jp

※ 次号は「7月3日頃」発行予定